MITSUBISHI

三菱電機エアコン別売部品

加湿器 PAC-KA80CH (PFHY-25·32·40·50KLE,KLR / PFRY-25·32·40·50MLE,MLR / PFFY-J28·36·45·56LEM,LRM) PAC-KA81CH (PFFY-63KLE,KLR PFRY-63MLE,MLR / PFFY-J71LEM,LRM) 取付説明書

WT10246X07

⚠注意
適用機種を必ず確認し、誤使用のないようにお願いします。

安全のために必ず守ること

●ご使用の前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ据付けてください。
●ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。

⚠警告	誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。
⚠注意	誤った取扱いをしたときに、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

・お読みになったあとは、取扱説明書とともに、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
・お使いになる方は、取扱説明書とともに、いつでも見られる所に大切に保管し、移設・修理の時は、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。

⚠警告

取付けは、販売店又は専門業者に依頼してください。

●ご自分で取付け工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。

●接続や固定が不完全な場合は、発熱・火災等の原因になります。

空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒータ等の別売品は必ず、当社規定の製品を使用してください。

●また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

取付工事は、この取付説明書に従って確実に行ってください。

●取付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

●電気回路容量不足や施工不備があると、感電、火災の原因になります。

改修は絶対にしないでください。また、修理は、お買上げの販売店にご相談ください。

●修理に不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

据付けをする前に

⚠注意

食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。

●食品の品質低下等の原因になります。

病院、通信事業所などに据付される場合は、ノイズに対する備えを十分に行って施工してください。

●インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になります。

特殊環境には、使用しないでください。

●油・蒸気・硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損することがあります。

濡れて困るものの上にユニットを据付けないでください。

●湿度が80%を越える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

据付け（移設）・電気工事をする前に

⚠注意

電気配線は、張力がかからないように配線工事をしてください。

●断線したり、発熱・火災の原因になります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

●梱包材には「クギ」等の金属あるいは、木片等を使用していますので放置状態にしますと「さし傷」等の原因になります。

製品の運搬には、十分注意してください。

●20kg以上の製品の運搬は、１人でしないでください。
●製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
●熱交換器フィン表面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
●包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから破棄してください。窒息事故等の原因になります。

試運転をする前に

⚠注意

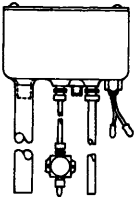
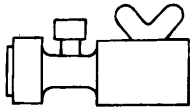
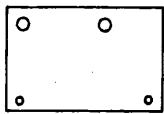
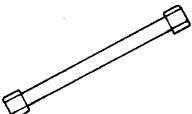
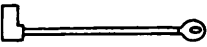
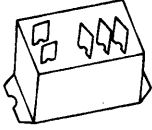
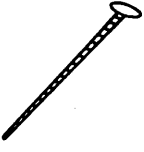
濡れた手でスイッチを操作しないでください。

●感電の原因になります。

エアフィルタをはずしたまま運転しないでください。

●内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

パネルやガードをはずしたまま運転しないでください。

●機器や回転物、高温部、高電圧に触れると巻き込まれたり、火傷や感電の原因になります。

運転停止後、すぐに電源を切らないでください。

●必ず５分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。

付属部品 本別売部品には、この取付説明書以外に、下記の部品が入っていますのでご確認ください。

（ネジ類は、表示本数以外に予備が入っています。）

No.	品名	個数		No.	品名	個数	
		80CH	81CH			80CH	81CH
1	加湿エレメント（25~50,J28~56用）	1	−	9	リードセンセット（25,J28用）	1	−
2	加湿エレメント（63,J71用）	−	1	10	リードセンセット（32,40,J36·45用）	1	−
3	給水タンクユニット	1	1	11	リードセンセット（50,63,J56·71用）	1	1
4	給水バルブセット	1	1	12	リードセンG	1	1
5	タンク取付板	1	1	13	リレー	1	1
6	銅管（φ6×1m）	1	1	14	クランプ	1	1
7	タッピンネジ（4×10）	5	5	15	ナイロンクリップ	1	1
8	タッピンネジ（3.5×10）	2	2	16	パンタイ	2	2

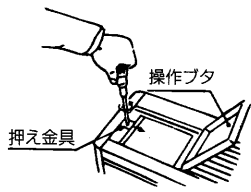
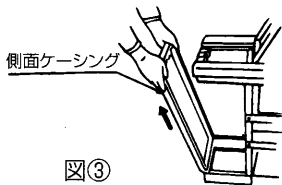
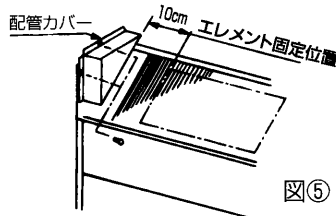
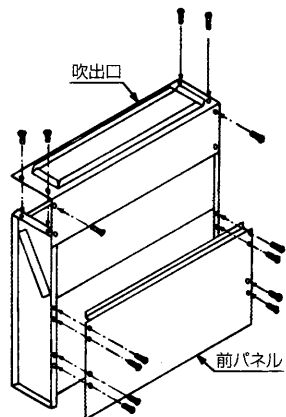
品　名	1 2 加湿エレメント	3 給水タンクユニット	4 バルブセット	5 タンク取付板	6 銅　管
形　状					
品　名	7 タッピンネジ（4×10）	8 タッピンネジ（3.5×10）	9 リードセンセット	10 リードセンセット	11 リードセンセット
形　状			PFHY-PFRY-25用 PFFY-J28用 リードセンA リードセンD リードセンH	PFHY-PFRY-58·63用 PFFY-J56·71用 リードセンB リードセンE リードセンJ	PFHY-PFRY-32·48用 PFFY-J36·45用 リードセンC リードセンF リードセンK
品　名	12 リードセンG	13 リレー	14 クランプ	15 ナイロンクリップ	16 パンタイ
形　状					

組込出荷の場合は、1項の☆印（太字）及び、3〜6項をお読みください。尚、本体分解の手順は、1項をご参照ください。

1 加湿器の取付

分 解

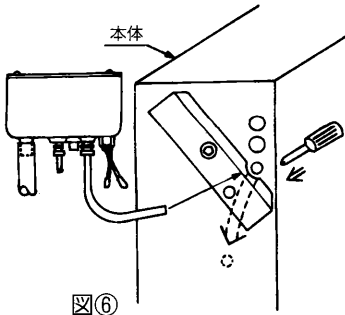
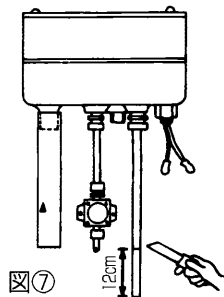
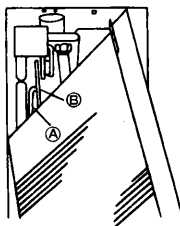
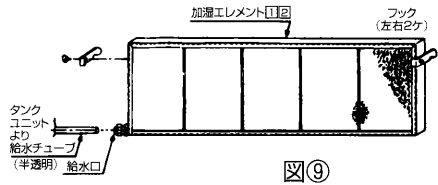
室内機本体を、下記のとおり分解してください。

機種名／手順	PFHY-KLE,PFFY-JLEM PFRY-MLE	PFHY-KLR,PFFY-JLRM PFRY-MLR
1	前パネルの下側に手をかけて、静かに持ち上げてください。前パネルが前に倒れてきます。（図①）	前パネルを取外してください。（ネジ8本）（図④）
2	配管側の操作ブタを開き、上部止めネジをゆるめ、押え金具をスライドしてください。（図②）	吹出口を取外してください。（ネジ6本）（図④）
3	側面ケーシングを上に抜いてください。電気品箱側も同様です。（図③）	配管カバーを取外してください。（ネジ2本）（図⑤）
4	配管カバーを取外してください。（ネジ2本）（図⑤）	

⚠注意

機内の断熱材を損傷しないよう分解時は注意してください。

取 付

※給水チューブ（半透明）は、一旦折れ曲がると元の形状には戻りません。絶対折れ曲がる事のないよう取扱いには、充分注意してください。

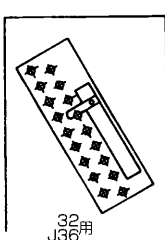
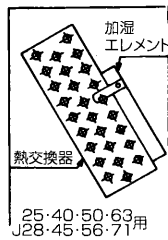
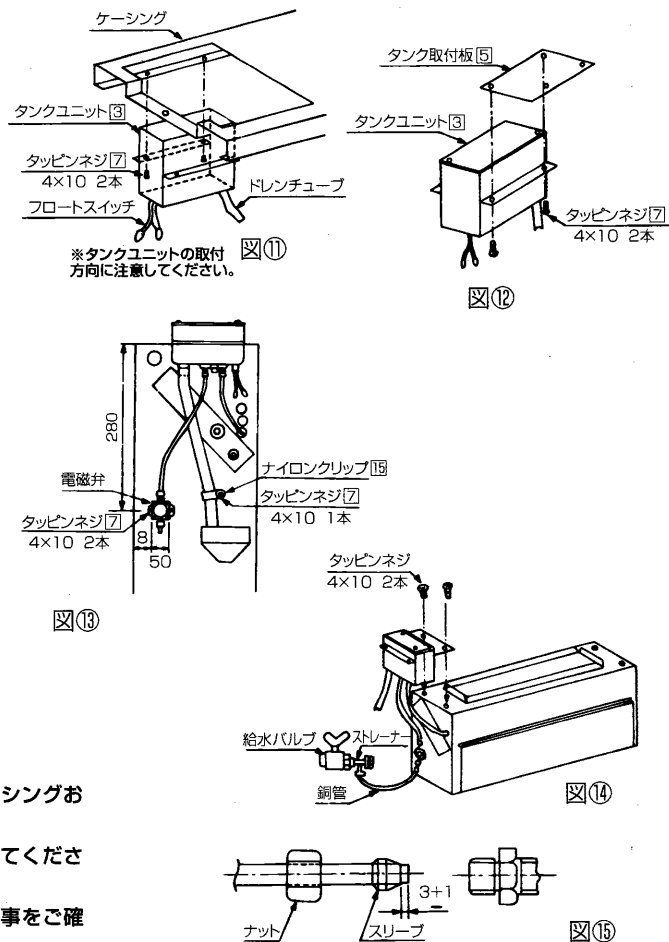
取付順序		内 容
PFHY-KLE PFRY-MLE PFFY-JLEM	PFHY-KLR PFRY-MLR PFFY-JLRM	
1	1	ドライバーで、ノックアウト穴（φ13）を開けてください。（図⑥）
—	2	給水チューブ（半透明）を黒印の位置で切断してください。（図⑦） **※チューブ切断面はムラがないよう注意してください。KLE,MLE,LEMタイプは切断が不要です。ご注意ください。**
2	3	給水チューブ（半透明）をノックアウト穴に差込んでください。給水チューブが差込めない場合は、配管Ⓐ Ⓑを広げてください。（図⑥⑧）
3	4	加湿エレメント①②を取り出し、エレメントに付属されているフックを、エレメントに付属されている止めネジ（2本）にてエレメント両側面に取付けてください。（図⑨）
4	5	加湿エレメント①②を配管カバーから約10cm離し、エレメントのフックが熱交換器の銅管部に引っ掛かるよう取付けてください。取付けは、エレメントを上下にゆすりながらやや強く押し込んだあと下に引き下げてください。（図⑤⑩）

図⑩

※図に示すように、引っ掛け位置に注意してください。
3列の場合は上から5段目
2列の場合は上から4段目

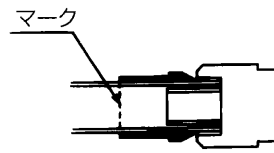
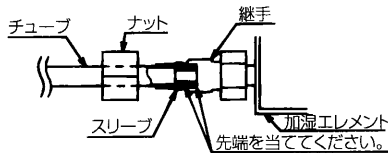
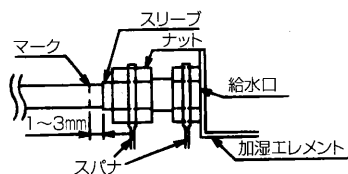
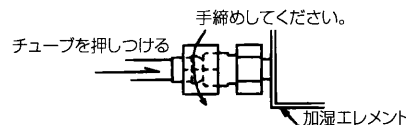
加湿エレメント①②

熱交換器

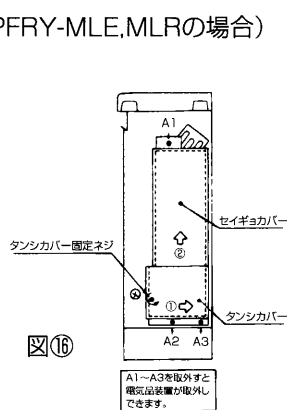
25·40·50·63 J28·45·56·71用

32 J36用

	5	—	タンクユニット[3]をタッピンネジ4×10[7]にて、ケーシングに取付けてください。(図⑪) **※フタは不要ですので取外してください。フタがあるときはKLE,MLE,LEMタイプの場合、タンクの取付けができません。**
	—	6	タンクユニット[3]をタッピンネジ4×10[7]にて、タンク取付板[5]に取付けてください。(図⑫)
	6	7	電磁弁をサイドフレームにタッピンネジ4×10[7]にて、取付けてください。(図⑬)
	7	8	本体側へ貫通してきた給水チューブを、加湿エレメント[1] [2] へ接続してください。(図⑨) なお、チューブは、充分に差込み、給水口はナットを手締めしたあと、両口スパナにて、増締めしてください。(図⑮,取付要領を参考にしてください。)
	8	9	ドレンチューブをナイロンクリップ [15]で、タッピンネジ4×10[7]にて固定してください。(図⑬)
	9	10	配管カバーを取付けてください。(図⑤)
	—	11	吹出口を取付けてください。この時、タンク取付板と共締めしてください。(図④⑭)
	11 ※1	—	側面ケーシングを、取付けてください。(図②③)
	12 ※1	12	前パネルを取付けてください。(図①④)
☆	10	13	**電磁弁と給水バルブセット(ストレーナー[4])間を、付属の銅管[6]にて接続してください。** **※3(図⑭)**

※1.PFHY-KLE,PFRY-MLE,PFFY-JLEMの場合は、配線完了後、側面ケーシングおよび、前パネルを取り付けてください。
※2.PFHY-KLR,PFRY-MLR,PFFY-JLRM前吹きタイプも同様に取り付けてください。
※3.給水系の配管は、組立後配管(チューブ及び銅管)を引張って抜けない事をご確認ください。

給水チューブ取付要領

●チューブを継手にはめ込み、先端とスリーブが継手に当たるように押し込んでください。
その後、チューブにマークを付けてナットを手締めしてください。
注)チューブ先端が継手の奥に密着していないと水もれの原因になりますので、必ず押し込みながらナットを手締めしてください。
注)スリーブ端とチューブのマークがずれていないことを確認してください。

●ナットをダブルスパナで$4.0^{+0.5}_{0}$N·mの力で締めつけてください。
注)チューブのマークがスリーブ端から外側に1~3mm程度ずれることがありますが、この範囲では問題ありません。

2 電気配線

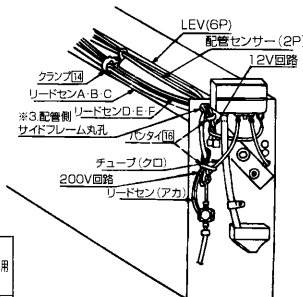
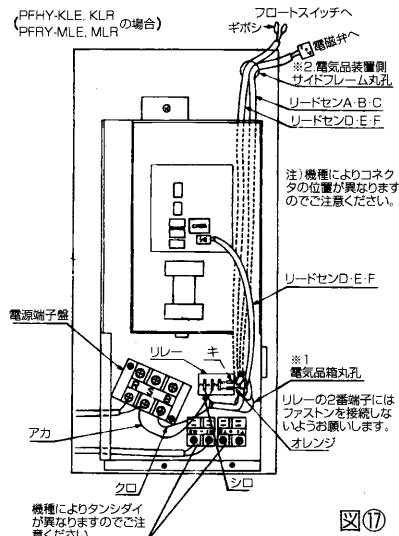
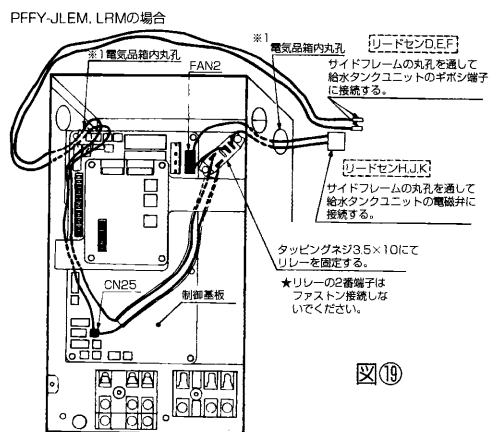
電気品装置の取外し方（PFHY-KLE,KLR ・PFRY-MLE,MLRの場合）

1.タンシカバー固定ネジを外し、タンシカバーを①方向にスライドさせ、手前に引きますと、タンシカバーが取外せます。（図⑯）
2.セイギョカバーを②方向にスライドさせますと、セイギョカバーが取外せます。
（図⑯）

電気品装置の取付け方

取付けは、取外しと逆の順序で行ってください。

電気配線使用部品

●配線には、機種形態に応じ、下記部品が必要です。
（余った配線は廃却してください。）

リードセン名 ＼ 機種		PFHY-25用 PFRY-25用	PFHY-32·40用 PFRY-32·40用	PFHY-50·63用 PFRY-50·63用	PFFY-J28用	PFFY-J36·45用	PFFY-J56·71用
リードセンセット PFHY-25用	リードセンA	○					
	リードセンD	○			○		
	リードセンH				○		
リードセンセット PFHY-32·40用	リードセンB		○				
	リードセンE		○			○	
	リードセンJ					○	
リードセンセット PFHY-50·63用	リードセンC			○			
	リードセンF			○			○
	リードセンK						○
リードセンG		○	○	○			

配線について

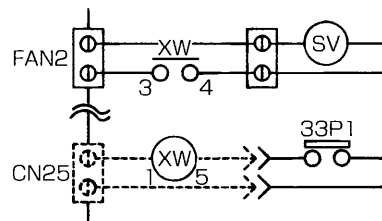
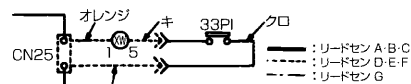
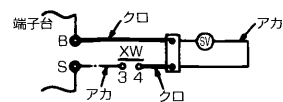
下記文中のリードセンA～Kまで出てきますが、上記対応表をご参照の上配線ください。
1.付属のリレーを端子箱表面の取付穴（4ヵ所穴が開いている内下の2ヵ所）に付属のタッピンネジ3.5×10 2本⑧にて図⑰⑲の如く取り付けてください。
　注）リレーの取付方向に注意してください。
2.リードセンA～Kを下表の如く配線ください。（図⑰⑱⑲）
　注）1.電磁弁及びフロートスイッチに接続するリードセンA～F、H～Kは、端子箱内丸孔（※1）を通し、電気品装置裏面をまわし、電気品装置側サイドフレーム丸孔（※2）を通し、更に配管側サイドフレーム丸孔（※3）を貫通させてください。（図⑰⑱⑲）
　　2.リードセンA～F、H～Kが、電気品箱内丸孔（※1）を通しにくい場合は、図⑯のA1～A3のネジを取外してください。
3.配線完了後、本体背面のリードセンA～F、H～Kを付属のクランプ⑭にて本体中央で固定してください。（図⑱）
4.リード線A～C、H～Kを付属のパンタイ1本⑯にて、電磁弁（アカ色リードセン）及び給水チューブ（クロ色）に結束してください。（図⑱）
　又、リードセンD～Fも付属パンタイ1本⑯にて、配管センサー（2P）及びLEV（6P）に結束してください。（図⑱）
　注）1.パンタイにて固定の際は、リードセンに張力がかからないよう、保護チューブもしくはキャブタイヤ上にて固定してください。
　　2.200V回路と12V回路が近接しますと伝送エラーの要因となりますので近接しないようにしてください。

電気配線図

（PFHY-KLE,KLR ・PFRY-MLE,MLRの場合）

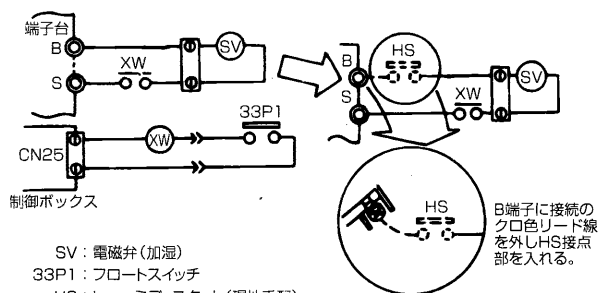
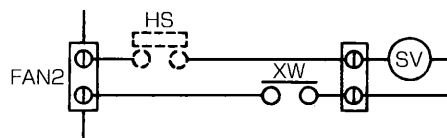
接続場所等 / 接続リード線名	端子箱側	接続場所
リードセンA,B,C	クロ色リードセン－端子箱内端子台 "8"（マル端子） シロ色リードセン－端子箱内端子台 "4"（ファストン端子）	ミドリ色コネクター配管側電磁弁 ミドリ色コネクタ
リードセンD,E,F	キ色リードセン－端子箱内端子台 "5"（ファストン端子） オレンジ色リードセン－端子箱内端子台 "1"（ファストン端子）	シロ色コネクターインドアキバン内 "CN25" キ色リードセン（ギボシ端子） クロ色リードセン（ギボシ端子）} 配線側フロートスイッチ ギボシ端子(無極性)
リードセンG	アカ色リードセン－端子箱内端子台 "5"（マル端子）	アカ色リードセン－端子箱内端子台 "3"

（PFFY-JLEM,LRMの場合）

接続場所 / リードセン名	リレー	制御基板	制御基板
リードセンH,J,K	ファストン端子 リードセン白（2本）・リレー3,4番	コネクタ3P黄色 （FAN2）	コネクタ緑色 （給水タンクユニット電磁弁）
リードセンD,E,F	ファストン端子 黒色リードセン ・リレー5番 オレンジ色リードセン・リレー1番	コネクタ2P白色 （CP25）	キボシ端子 リードセン黄，黒・フロートスイッチ

3 ヒューミディスタットの取付について

ヒューミディスタットは、加湿器用電磁弁の200V回路に現地改造にて接続してください。（ヒューミディスタットの接点定格は、200V 0.05A程度必要です。）
ヒューミディスタットを使用される場合は〔図⑳〕のように接続してください。

PFFYの場合

HS
FAN2
XW
SV

図⑳

4 現地側給水配管工事

1.給水配管は、付属の給水バルブに接続してください。
　給水バルブはPT1/2オネジです。
　付属銅管は、φ6×1m
2.給水配管には、防露工事を施こしてください。（電磁弁の入口まで）
3.給水は、止水又は、上水を使用してください。但し、公共の水道管に直接接続する事はできません。この様な場合には、シスターンタンクをご使用ください。

5 メンテナンス

加湿エレメントの交換

加湿エレメントの寿命は一般の上水で5年です。加湿能力の低下や加湿エレメントからの水洩れが確認されたら交換してください。

加湿エレメントの乾燥についてのお願い

暖房シーズン終了後、そのまま放置しますと、場所によってはカビが発生することがあります。カビの発生を防止するため、暖房シーズン終了後、加湿エレメントの強制乾燥をおこなってください。強制乾燥は、約20時間「送風」運転してください。